

【はじめに】

天宮真奈美は西条学園の二年生。「模範生徒」として学園理事会から推されるほどの実力者である。このシリーズは天宮真奈美が「自分以外常識改変の世界」で排泄ショーを行わさせられたり犯されたり、時を止める能力を持った奴に犯されたりと散々な目に遭いながら潜在的なマゾヒズムを開花させていく。

人物紹介

天宮真奈美 二年生

西条学園きつての才女。文武両道・才色兼備の権化で人を惹きつける魅力があるが、生徒会などには入っていない。

学園代表の「模範生徒」として推薦され、学校案内のパンフレットやTV出演などの経験もある。

性格は明るくまじめなタイプだが潜在的マゾヒストで、露出願望がある。

模範生徒としての活躍ゆえに人目に触れることも多く、無意識に人の恨みを買いがち。

また、他校へ交流生徒代表として駆り出されることもあり、他校の生徒にも名前が知られている。

腰まで伸びた明るいキャラメル色のストレートの髪が特徴。頭頂部にカチューシャ風の

編み込みをしている。B84/W62/H82,身長162cm。9月生まれのおとめ座。

岡嶋一雄

学園の保健体育担当教師。傲慢とも熱血とも取れる性格をしており、生徒からの人気は好きか嫌いで二分される。天宮真奈美の野外放尿を目撃しその姿を盗撮してからは真奈美に対し劣情を抱いており、ある時手に入れた「天宮真奈美以外常識改変する装置」を利用し真奈美に教室の壇上で放尿させたりクラスの前で自慰や排泄をさせることに喜びを覚える、正真正銘の変態。

小野沢ヒロキ

真奈美と同じクラスの男子生徒。暗く目立たない性格をしているが、真奈美と同じクラスなだけあって成績は一般的に比べればそこそこ。過保護気味な母がいる。岡嶋が繰り

広げた「真奈美以外常識改変世界」を経験し、真奈美があられもなく快楽に溺れる姿を見て彼女に恋をする。

世界リセット後「時を止める装置」を手にしていることに気付き、真奈美が生徒会長立候補演説中にスライムうち作戦を実行する。

皆川友恵

西条学園生徒会副会長。デイベート部所属の二年生。キツめの性格をしているクイーンビータイプ。多少不器用だがその能力は本物で、政治手腕に長けていると言われる。現職都議会議員の両親を持つ、政治家一家の生まれ。次期生徒会長候補の一人だが、真奈美に票で負けそうなことを危惧している。一方で真奈美に恋心とも劣情ともいえる感情を抱いており、真奈美の快楽に溺れる姿に興奮を覚え、機会があれば積極的に彼女を犯す。ツリ目で黒髪のパブヘア。目元にはくろがある。B78/W59/H77,158cm。

西条源蔵

西条学園の理事長。人を見る目は確かで、真奈美の人を惹きつける才能に着目し彼女を生徒会とは別枠の「模範生徒」として推薦した張本人。恰幅のいい老人だが、性欲は衰えておらず彼女の潜在的マゾヒストとしての願望を無意識化で感じ取っている。常識改変世界装置を手にした際、彼女のパンフレット写真を載せるため、様々な屈辱を与えながら写真撮影と動画撮影を行う。

身長 183cm。

天宮真奈美 はじめての公開放尿

天宮真奈美は、西条学園の二年生。二年ㄗ組の委員長をつとめ、学園きつての才女である真奈美は理事長の西条源蔵より「模範生徒」としての立場が与えられていた。西条学園は都内有数の私立進学校で学費もそれなりに高額だ。一般家庭よりもやや上流の出身とはいえ、高い学費は天宮家にとってけして安い額ではない。学園の模範生徒として選ばれると、いわゆる奨学生として学費が免除されるのだ。なにより優秀な生徒の証として選ばれたことを両親はとても喜んでくれたし、真奈美自身もそれを誇りに思っていた。模範生徒として活躍するだけではなく、容姿端麗な彼女は今や学園の“顔”として学校案内のパンフレットや動画に出演することも多い。明るくまじめな性格は男女問わず人気がある。

しかし、そんな彼女にもひそやかな秘密があった。

それは、野外での露出や排泄願望を抱えていること――。

もちろんそれを実行する度胸など彼女にはなかった。校則どころか倫理からも大きく逸脱する行為。悪いことだとは知りながら、こっそりネットの画像検索を見たり（一度架空請求の広告で怖い思いをしたので画像検索だけで、サイトを見たりすることはできない）、時には水をたくさん飲んで家の中で思いつき我慢してからトイレに駆け込み、放尿し密やかに欲求を何とか満たす日々だ。それがある日、叶えることができる瞬間が訪れてしまった。

ある日の放課後、突如として強烈な尿意を覚えたのだ。家に帰るまではまだ距離がある。少し歩けばコンビニもあるが、そこまで我慢できることはできるだろうか、と真奈

美は思った。近くには大きな茂みのある公園がある。公衆トイレはないが、そこなら人目につかず用を足せるかもしれない――。

（いい、かな……いや、だめ、だよね、でもっ……!）

密かに抱えていた願望と、それをかなえることができるかもしれないシチュエーション。それをなんとか抑え込もうとする理性。そして限界に達する本能。

（人通りのある道でおもらしするよりは絶対いい……!）

真奈美は公園に駆け込み、茂みに身を隠した。

「ツバサこっちこっちー!」「待ってよー!」「おにさんこちらっ!」「ねーえ、おまま
ごとしようよー!!」

子供たちの無邪気にはしゃぐ声と気配を背に感じながら、真奈美は和式便器にまたがるような体勢で下着をおろした。

（ああ…、ああ、出ちゃう――!!）

しよろっ……しゅい、シユイシユイシユイーっ……!!

勢いよくおしっこが噴き出し、乾いた地面を濃く染めていく。

「さきちゃんがママでえ、ゆながこどもね!」

ああ、わたし、今外で、おしっこしてる——!!

ひそやかに抱いていた願望が解き放たれ、真奈美の脳に強い快感が襲う。風が吹いてむき出しの尻を風が撫で、ゾクゾクと野外放尿の実感を与えてくれた。すぐ後ろを通る子供たちの足音、無邪気な声。すべてが真奈美を絶頂へと誘う。

「んんん、ふううっ……!!」

プシッ…。

口を手で押さえながら、真奈美は静かに潮を吹いて絶頂へ達していた。

土の地面はすっかり色が濃くなり、ほかほかと尿が水たまりを作っていた。緩やかな傾斜になっているのか、尿が子供たちの方へ小川のように静かに一本の細い筋を描い

て流れてしまっていた。天宮真奈美、西条学園高等部二年生の5月1日のことだった。

そしてそのほんの少しのタガが外れた様子の彼女をカメラに収める一人の男の姿がいたことを、真奈美は後に知ることになる――。

*